

焼きいもカーを、おいかけて

う つ ぎ まさのぶ
宇津木 雅信

作品にこめたおもい

以前、脳性まひの人の生活を助けるボランティアをしていました。そのときは、自からうるこな体験の連続でした。

車椅子で街を移動すると、道路には段差やデコボコが多いし、狭い歩道に放置自転車があると進めません。今はエレベーターを完備する駅も増えましたが、当時は通行人に呼びかけて手伝ってもらい、長い階段を上り下りしていました。

大変ではありましたが、考えるきっかけをたくさん与えてもらいました。子どもたちが、体の不自由な人たちを理解することに、少しでも役立てばと思います。

原作

「ガルル…、ワンワンワン！」

黒くて大きな犬に、はげしくほえられたつよしは、一歩もうごけません。

大きな石焼きいもの売り声が聞こえたので、いそいで家を出てかけだしたのですが、ほそい道で犬にほえられて立ちおうじょう。つよしは、犬が犬のながてなのです。かいぬしのおじいさんは、たづなを引っばって、とびかかろうとする犬を止めることでせいっぱい。

つよしは、もうだめだと思って目をつぶったしゅんかん、なぜか犬はほえるのをやめました。ゆっくり目をあけると、車いすにのった男の子が、犬のあたまをなでていました。犬はさっきとちがっておとなしく、さかんにしっぽをふっています。

「もうだいじょうぶ。クロは友だちだから」

「ど…、どうもありがとう」

おじいさんは、「おどろかせてごめんね。クロいくぞ」と歩いていきました。

そのとき、とおくから、「いーしゃーきいもー」と聞こえてきたので、つよしは声のした方をキョロキョロさがしました。それを見て、車いすの男の子がいすけが聞きました。

「きみも、焼きいも買いにいくの？」

「うん」

じつはだいすけも、焼きいもを買いにいくところだったのです。おたがい自己しょうかい

をしたらおなじ学年で、食べ物では焼きいもがちょう大すぎでした。

こうして、焼きいもを売っている焼きいもカーを、いっしょにおいかけることになったのです。つよしは、ピンチをすくってもらったので、だいすけが手でこいでいた車いすを、後ろからおしてあげることにしました。

「焼きいもカーが、とおくへ行ってなければいいんだけど」つよしがつぶやくと、「だいじょうぶ。焼きいもカーのコースはだいたいわかってるし、ときどきとまって売っているからぜったいおいつけるよ」と、だいすけは言いました。

つよしは焼きいもカーにおいつけなかったことがなんともあるので、すごいなあと思いました。

だいすけの意見で、2人は駅に向かいました。車いすをおすのがはじめてだったつよしは、いろんなことに気づきました。道には、みそやでこぼこが、たくさんあること。歩道に自転車がとめられていると、とてもとりにくいこと。つよしは歩道に自転車をとめるのは、もうやめようと思いました。

駅前につきましたが、焼きいもカーはいません。耳をすますと、どこかで「いーしゃーきいもー」の音が…。どうやら、駅のはんたいがわから聞こえてきているようです。

駅をとおりぬければ近いのですが、小さな駅なのでエレベーターはなく、長いかいだんしかありません。ふみきりまでは、とても離れています。とおまわりしているあいだに、焼きいもカーはどこかへ行ってしまふかもしれません。

つよしがこまっていると、だいすけはまたまた「だいじょうぶ」と言いました。そして、大きな声で「すみませーん、おねがいしまーす！」と歩いている人たちに呼びかけはじめたのです。「駅のはんたいがわにいきたいんです。てつだってください。」いつのまにかつよしもいっしょになって、声をはりあげていました。

てつだってくれることになった3人と、だいすけの乗った車いすをはこびました。かいだんをのぼって、おりて、駅のはんたいがわにつくことができました。2人でおれいを言うと、てつだってくれた人たちみんな、ニコニコしながら歩いていきました。そこへ、焼きいもカーが、ゆっくりやってきたのです。

あまくて、ほっかほかの石焼きいも。つよしの家でいっしょに食べていると、プー。

だいすけのおならです。はずかしがっているだいすけに、こんどはつよしが言いました。

「だいじょうぶっ！」

そのあとしばらく、クスクス、ゲラゲラ、2人の笑い声は止まりませんでした。